

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った聴力検査結果を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や聴力検査結果を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	顔面神経減荷術による聴力閾値変化の検討
研究機関名	愛媛大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 耳鼻咽喉科頭頸部外科 (職名) 教授 (氏名) 羽藤直人
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027年3月31日
対象となる方	2010年4月から2025年3月に当院で顔面神経減荷術を受けた方のうち手術前と手術後に聴力検査を行なった患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、聴力検査日、手術日、手術適応病名、手術記録、聴力検査結果等)
研究の概要 (目的・方法)	顔面神経麻痺を発症した場合、薬物療法やリハビリテーションによりほとんどの方は改善します。しかし、麻痺の程度が重症である場合、精密検査の結果によっては顔面神経減荷術が必要となります。この手術は、顔面神経を包む骨を除去して、神経の浮腫みを改善させることを目的とします。従来の方法では音を伝える骨(耳小骨連鎖)を一時的に離断する必要があるため、術後難聴が問題となります。近年では、耳小骨連鎖を温存したまま顔面神経減荷術を行う術式も報告されていますが、未だ術後難聴を評価した報告は限られています。今回の研究では、顔面神経減荷術の術式による術後難聴の程度を明らかにすることで、術式選択の幅が広がり、それぞれの患者さんに応じた適切な術式選択が期待されます。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたし

	ます。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 岩田 真治 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5366